



伊予市灘町が、一昨年、五十を  
超えた私の本籍です。

両親とも伊予市の出身です。自  
分は物心付かないころから、松山  
市や伊予市に盆暮れ正月と帰省し  
ました。松山の銀天街、大街道、  
松山城は幼いころからなじみの場  
所です。母方の祖父の家が、一時、  
城の北側の鉄砲町にあり、市電で  
城山をへらりと回り、城の南側の

## 私のふるさと考

川田 篤

弁護士・弁理士



松山の繁華街へと出かけていきま  
した。道後の霊の湯につかり、湯  
上がりにお茶をすすりながら坊っ  
ちゃん団子を食べ、と、松山の人  
にはおなじみの光景。梅津寺にも  
泳ぎに行きました。愛媛で過し  
た日々は、合わせれば、もしかし  
たら半年を超えているかもしれま  
せん。ただ、自分は愛媛に住ん  
だことは残念ながらありません。  
生まれは大阪です。自分は、地  
方から都会に出た世代の次の世代  
です。両親が十代から二十代だっ  
た昭和20年代。わが国も敗戦の廃  
虚から次第に復興を始めたころ。  
地方から都会へという流れが、迷  
いもなく普通のことだったよう  
です。両親も愛媛から都会へと出  
て

行きました。父は大学進学のため  
京都に下宿し、母は東京の短大に  
進学し学生寮に入りました。今で  
も愛媛の若者が都会へ出て行くの  
は進学の折が多いのでしょうか。両  
親のころは汽車に乗り、丸一日か  
けました。しかし、今の人は松山か  
ら飛行機に乗れば、一時間ほどで  
羽田に着きます。故郷を去る悲壮  
感はありません。父は大阪の会社に就職し、その  
うち母と結婚し、大阪に住み始め  
ました。しばらくして私の姉が  
生まれ、そして私が生まれました。  
しかし、自分が大阪に住んだのも  
4歳まで。それから50歳になるま  
で、奈良、東京、神奈川、大阪、  
神奈川、東京、奈良、東京、ドイ

## ふるさと伝言

ッ、東京、神奈川と居住地も変わ  
りました。引越しも17回に及び  
ます。  
関東に住んで通算33年。ただ、  
今でも「東京の方は」と言いがち  
です。「よそ」の土地との意識は  
抜け切れません。関西には14年住  
みました。関西の方が関東よりも  
期間は短いですが、幼いころに住  
み、両親の最後の住まいも奈良で  
した。そのためか、東京より何と  
なく身近です。それでも、自然な  
関西弁は話せませんし、関西人の  
意識もありません。

それでは自分の出自はどこかと  
いうと、やはり両親の出身の愛媛  
だなどと思えます。野球中継でも、  
駅伝中継でも、愛媛のチームを応援  
します。ただ、住んだことがあ  
りません。知り合いも親戚に限ら  
れます。その人数も次第に減りつ  
つあります。伊予弁も話せません。  
今も伊予市にいる義理の伯母は、  
親戚の子なせいか、遠慮なく伊予  
弁で話してきます。しかし、伊予  
弁の細かい言葉のあやは分からな  
いこともあります。  
これから一年、両親、今も愛媛  
にいる親戚などの話も交えなが  
ら、自分の人生も振り返り、弁護  
士としての仕事の話も多少してい  
きたいと思えます。これから県外  
に出よつか、それとも愛媛にとど  
まろうかと思ひ感う若い方の何か  
の参考にでもなれば幸いです。  
(かわだ・あつし、本籍伊予市)